昭和52年8月5日
広報あじすと 毎月5日 発行
お知らせ版 毎月20日

山口県吉敷郡阿知須町
発行 阿知須町役場
電話4111番㊥・〒754—12
印刷 阿知須砂郷よしの印刷

広報あじすと

No.309

町の住民登録人口
(52年7月31日現在) 前月比
世帯 2,144世帯 +2
人口 8.269人 +14
(男3.908人 女4.361人)
(国勢調査 昭和50年10月1日
世帯 2.113世帯
人口 8.137人
男3.771人 女4.366人

指定袋に入れてバックへ

ごみの持ち出しは決められた日に

夏場を迎えるとハエやカ、その他の虫が多く発生し、いろいろな病気も起こりがちです。

私たちの周囲をきれいにすることは身体を健康から守ることでもあります。

そこで、毎年のように問題になるのがごみ処理の問題です。

町ではごみの出し方について今月から変更しましたので、ご注意ください。

一般家庭から排出されるごみ類は、可燃物(直所から出る残飯類野菜類等)の持ち出しは週三回、不燃物(ビン、カン類)の持ち出しは週一回となり、原則の持ち出しはできません。夕方六時以降から早朝七時頃までにお願いします。

ごみ置場付近や作業している人は毎日悪臭になやまされています。利用者もごみを処理する側に立って利用していただくと幸せます。

町民みんなが、快適な生活環境をつくるためにも是非つぎのことを守ってください。(八月一日より実施する区域は岩倉区を除く阿知須校区)

▽町指定袋を必ず使用ください
袋は各区環境衛生組合宅にあります。ビニール袋は十円であっ旋しています。いままではバケツ等で持ち出し、直接パックに移される方もありましたが、今後はこのようなことがないようお願いします。

▽可燃物と不燃物を出す日が別々となりましたので、町が指定した日に持ち出してください。

・水切りのできるものはよく水切りをしましょう。

・燃える物と燃えない物はよく仕分けで出してください。

・スプレー等の小型圧縮ボンベは必ずバケツにあけて出しましょう。

・新聞紙・雑誌等はひもでよく処理ください。

しばって持ち出しましょう。

▽ごみを海・川・道路等の公共用地に捨てると罰せられます。

▽ごみを持ち出されるときは、お宅の地区にあるバックをご利用ください。他地区への持ち込みはやめましょう。

▽家を解体したときの古材・庭木のつみくず・雑草は自宅(自分)で処理ください。

▽ごみを海・川・道路等の公共用地に捨てると罰せられます。

以上のことを一人一人が守ってきれいで住みよい町、他人に迷惑をかけない町をつくるよう努めましょう。

新しく林 幸年収入役

中尾前収入役は任期満了で勇退

本町の新しい収入役に林幸年氏(五〇)=赤迫・町教育委員会総務課長・写真=が決まり、七月十四日に就任しました。

中尾雪蔵氏(六八)=耀田北=の任期満了に伴うもので、中尾前収入役は三期連続十二年勤めての勇退ですが、昭和七年から七年余り勤めたことあり、合計十九年余、本町の金庫番を勤めました。

林収入役は小郡農業学校(現山口農高)卒業後、宇部興産技術養成所を経て、昭和二十二年六月に山口市役所阿知須支所に奉職、同年十一月に本町が山口市から分離独立以後は町職員として税務課長施設課長、教委総務課長など歴任。

その間町営ラジューム温泉支配人、観光課長なども勤めました。趣味は盆栽。

家族は本人夫婦と男の子二人、母親の五人。

ごあいさつ 林 幸年

このたび、はからずも収入役に就任いたし、町の財政をお預りすることになりました。誠に身に余る光栄と存じますと共に、その職責の重大さを痛感いたし、一意専心、誠意と情熱をもって職務に精励いたし、町発展に寄与いたしたいと存じます。

皆様方のご叱声、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

道は広く美しく安全に

八月は道路を守る月間

八月は「道路をまもる月間」運動が全国で展開されます。

この運動は、道路環境を良好に整備するとともにすべての人に道路の正しい利用法と道路愛護思想を広め、道路を常に広く美しく安全に使用し、管理する気運を高めようとするものです。

阿知須町もこの趣旨に沿って、道路利用者の立場に立って、交通事故の防止と円滑な通行の確保のため、交通安全施設の点検・整備を行います。

そして地すべりや落石等の危険箇所の点検および道路管理体制の整備を進めています。

しかし、道路を利用される皆さんもつきのことは守ってください。

▽交通安全施設(カーブミラー・ガードレール等)をむやみに破らない。

▽横断歩道橋を正しく利用する。

▽ダンプカー等から積載物を落下させない。

▽法(のり)面や側溝等を不法占いでしょう。

用しない。特に歩道を自転車や商品置場に利用して、一般の交通に支障をきたさない。

一つまちがえば重大な事故につながる恐れがありますので、これらの行為をしないようご協力をお願いします。

さらに、道路の清掃、美化について地域住民の皆さんの積極的な協力をお願いし、広く美しく安全な道路環境を皆んなで守りましょう。

昔から道は日本人の生活の足跡として、時代のきさまな要求から生れ、道が人をよび、町を形づくり、人々の暮らしを変えてきました。

その過程には、戦争や産業、科学、宗教、文化があり、深く道と関わってきたことはいうまでもありません。

そして今、新しい道路づくりを考えるとき、道にその歴史をたずねることも、おろそかにはできないでしょう。

八・九月は台風シーズン

日ごろから準備や注意を

今年もまた台風シーズンが近づきました。台風は、例年八、九月ごろになると日本に接近し、上陸するものが多くなり、これによって多くの尊い人命や財産が失われます。

台風が来襲すると、暴風、洪水、高潮などによる河川のはん濫、家屋の倒壊・流失、がけくずれなどから大きな被害の発生が予想されます。

台風の被害を少なくするには、防災関係機関の活動だけでは十分でなく、ふだんからの準備や注意が大切です。

台風に備えての平素の心得

一、停電に備えて懐中電灯、ローソク、トランジスターラジオなどを用意しておく。

二、住居付近の地形からみて、どのような災害が起きるかをよく知っておく。

三、安全な避難場所と、そこへの注意する。

四、家や塀などの補修をし、溝や道路の整備を確認しておく。

五、木の枝が風で電線にふれるおそれがあれば切り落しておく。

六、被害を受けるおそれのある地域は、日頃から懐中電灯、医薬品等の用意をしておく。

台風が近づいたときの準備

① ラジオ、テレビで気象情報や防災上の注意事項をよく聞く。

② 窓の雨戸などは、釘、かすがいなどで止めるか、板をあてたりして早めに補強しておく。

③ 煙突、看板、塀なども針金などで補強しておく。

④ 崖地の付近の人は、大雨が続くと地盤がゆるみ崩くずれの危険があるので十分注意する。

⑤ 河川や海岸近くに住んでいる人は、川の水かさや高潮・波浪に注意する。

お知らせ

再び引野遺跡発掘

興味ある方見学にどうぞ

町教育委員会は昨年夏に引続いて引野遺跡(日塚)の発掘調査を八月六日から二十二日の六日間日本考古学会員の指導で行うことになりました。

町内の方で発掘調査に興味を持っておられる方は見学にどうぞ。

16ミリ映写技術

23日から講習会

町教育委員会は十六ミリ映写技術講習会をつぎのとおり開きます。

期日 八月二十三、二十五日の三日間午後七時から
場所 町役場
対象 十六歳以上の町内在住者
申込み 十八歳以上で町教委へ受講料 五百円(テキスト代等を含む)

保険証が変ります

国保加入者は手元に保管を

現在の国民健康保険の保険証は八月三十一日まで使用できますが九月一日からは新しい保険証に変ります。

このため、各地区の区長さんに現行の保険証を取りまとめ役場へ提出していただくことになります。加入者はいつでも提出できるよう手元に保管しておいてください。

なお、太学生等で表紙の一部に「学」「特」という印が押してある保険証をお持ちの方は、在学証明書か身分証明書を添えて提出ください。

用地境界杭を設置

一九〇号線の岩倉区間

建設省山口工事事務所は国道一九〇号線の岩倉区間(岩西—田辺竹千代さん宅付近から佐山まで)の国道と個人所有地の境界に八月十日から来年三月末頃までにかけて杭を設けます。

杭は用地買収平面図に基づいて請負業者が行いますが、境界確認に際して立会を依頼されたときは協力をお願いしますとのことです。

なお設置後、仮杭の位置について異議があれば建設省山口工事事務所調査設計課(防府市国衙一丁目TEL二三一一七八五)まで申し出ください。

来月11日に町内オープンバレー

町体育協会主催・バレーボール同好会主管による町内オープン九人制男女バレーボール大会がつぎのとおり行われます。

日時 九月十一日(日)午前八時三十分開会
会場 阿中バレーコート
種目 九人制男女別
参加資格 町内在住者または在勤者で高校生以上
チーム編成 団体、町内会、クラブ、職場、学校同窓等編成
自由、男子でチーム編成困難な場合女子を含めてもよい。
申込み 九月六日(火)までにチーム名責任者名を体育協会事務局(教育委員会)へ

県の中・初級試験

受付は九月一日から

山口県人事委員会は五十二年度県職員採用中級・初級試験をつぎの要領で行います。

受付期間 九月一日から二十日まで(郵送は二十日消印まで)
職種及び採用予定 ▽中級=行政十五人、保母・栄養士各若干▽初級=事務・十五人、学校事務二十人、その他若干。
受験資格 ▽中級=昭和一三五年四月二日から昭和二十三年四月二日までに生まれた者。▽初級=昭和二十一年から三十五年までに生まれた者、月日は中級に同じ。学校事務は昭和二十七年から二十五年。
試験日時 中、初級とも十月十六日、県下六会場
申込書の請求 県人事委員会事務局(山口市春日町八三・電話山口二三二一一内線七二一)へ。問い合わせも同じ。

光電式はかりは検定済のものを

光電式はかりは法の改正により昭和四十七年十月から、新たに検定の対象となり、検定証のない光電式はかりは、取引上または証明上の計量には使用できなくなりました。

昭和四十七年当時すでに使用されていた検定証印のない光電式は使用者が法の規定による届出をしたものに対しては、本年九月末まで有効とみなされますが、これを経過すると、検定に合格しない限り、取引上又は証明上の計量には使用できないこととなりますのでご注意ください。

栄養指導車が来町

近くの会場にどうぞ

県の保健栄養指導車(キッチンカー)が、つぎの日程で本町にきます。近くの会場にお出かけください。

八月二十五日 河内公会堂前
〃二十六日 小古郷会館前
時間はいずれも午後一時から

善意はここに

〔社会福祉協議会へ〕
◇香典返し▽五万円=古川哲也さん(辰表)は父朝一さんの。▽二万五千円=御永孝一さん(岩上)は母シツノさんの。▽二万円=深野手行さん(小西)は母マツ子さんの。

〔町へ〕
◇広報紙送料▽三千円=芥弘二郎さん(自北)=北海道在勤中の広報紙送料として。松尾茂さん(広島県佐伯郡大野町赤坪国鉄宿舎・小西出身)◇学校へ▽一万二千円=青年団(団長・市川孝)が主催したチャリティーコンサートの収益金を町内三校の教育の一助として。

たばこは○町内で。

8月のメモ

6・7日 子ども会ソフトボール大会(前八時半・阿中)
9日 育児相談(後1時半)
10日 幼児学級(後1時半)
〃 レタリング教室(後7時半)
12日 心配ごと相談(前10時)
〃 少年教育講座(後2時半)
16日 盆踊り大会(後6時半)
18日 青年教室(後7時半)
23日 園芸教室(後1時半・町内巡回指導)
会場の記入のないものは役場

8月の納税
○ 町県民税
○ 国民健康保険税

ぼくの学校 わたしの学校

〔阿知須小〕
10日 ベルマーク整理
20日 全校登校日、貯金日
21日 廃品回収
28日 PTA奉仕作業
9月1日 二学期始業式
〔井関小〕
8日〜10日 子ども練成会(引野明宋寺)
14日 体力つくり
20日 登校日 PTA奉仕作業
21日 不用品回収 体力つくり
28日 体力つくり
9月1日 一学期始業式
5日 参観日
6日 児童集会

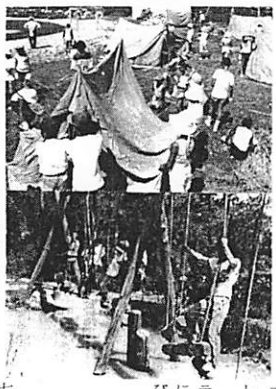
〔阿知須中〕
13日 音楽コンクール(付属中)
19日 青敷郡教育振興大会
20日 全校登校日 育友会作業
23日 学年別水泳選手権
9月1日 一学期始業式
4日 参観日 育友会球技大会

楽しかったキャンプ生活

仲間もふえ自炊も大丈夫

吉敷郡子ども会教育キャンプ交流会は七月二十七日から三日間本町の引受けで井関小学校運動場に郡内から三百九名の子どもが参加して行われました。

初日は開村式後まず班編成し、三日間一緒に生活する仲間をきめました。午後はグループごとにテント作り。自分たちで作る夕食の献立は、カレーライス。即席かまどに鍋、飯ごうを置き手ぬかりを真黒にしながら、他の班に負けまいと一生懸命がんばっていました。竹で作った食卓台に食事を並べ、班員一緒に食べる夕食は、自分たちでつくりあげた満足感で、おいしそうです。



初めての朝は六時半の起床。一夜すごした子どもたちは以前から知っていたように親しくなり、みそ汁をつくりながら、キャンプファイヤーのゲーム計画について話し合っていました。

午後一時過ぎまでゴルフ場、観光ホテル裏のフィールドアスレチックに挑戦。太陽の照りつける下で汗びっしょりになっての体力づくりでした。

日暮れ時から待ちに待ったキャンプファイヤー、営火を中心に参加者全員が輪をつくり、自分たちで考えた寸劇や歌を班ごとに出し合い、楽しいひとときを過ごしました。テントに入っても興奮さめやまないのか、就寝時間になっても話し込んでいました。

短かいようで長かったキャンプ生活最後の日、朝食後は撤収の方法について説明をうけ、みなさんきびきびと美しく……と指導。撤収開始、かまどを崩す者、苦労して作った食卓台を片付ける者も起きそうです。

簡易水道の能力は平均して周内と赤迫の井戸から一日三百トン、宇部市から買い受ける水が一日に約七百トンで合計千㌧。それを千二千戸が使い、一戸一日均使用量は約一㌧です。ところが、夏になると二〇%程度ふえます。

晴天が続くようであれば飲料水確保のために、庭木や道路に水を撒くのはつとめて避けるようにしてください。

ふえる水道の使用　晴天が続くと断水

私たちが毎日なにげなく使っている水は、健康で文化的な生活を営むうえで欠かせないものです。

本町の簡易水道は宇部市の上水を一部もらっていますが、今年は幸い雨も多く降り、これまでのところ水不足のきらいはみられません。しかし、今月中旬から月末にかけて日照が続けば水不足の心配もでてきます。

規律正しい集団生活、人間的なふれあいの中で、得がたい経験をつみ、三日間の思い出を胸にひめ家族の待つ家に帰っていきました。そのまま続けられました。

しかし、近年の稲刈りが早くなる傾向があり、農繁期にさしかかると(8)平日だと神役の人集めが困難なこと、などの理由から、期日を早く、しかも、祭日（敬老の日）にしたらということになり、ことしは九月十五日に変更したものです。

神社関係者は今後もその日にしたい意向ですが、ことしの結果をみて正式決定する予定です。

昭和二十二年にコレラが発生したとき、十月五日に延期され、以来そのまま続けられました。

東条二度目の優勝

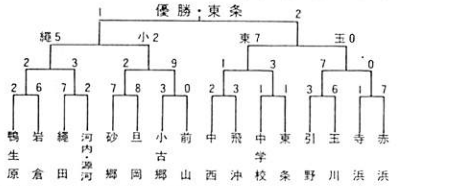
町内野球の参加十六チーム

第二十七回町内野球大会は七月二十四日、快晴の下、中学校チーム満塁のチャンスをつぶすと五回縄田が二塁打を足がかりにバンドスクイズで一点先行。そのまま逃げ切る東条が押しぎみでしたが三回裏に二死一、三塁のとき縄田の守備の乱れにより二者帰の逆転、岡村投手の好投で東条チームにかい敬があがった。

両投手の投げあいとなり、前半は二十四日、快晴の下、中学校チームを含む十六チームが熱戦。その結果、試合ごとに調子にのった東条チームが縄田チームを二対一で下し二年ぶり二度目の優勝を成しとげました。

前回優勝の岩倉、準優勝の縄生原が一回戦からあたる好試合が展開されました。

優勝戦は東条・岡村・縄田・岩崎　戦績は別表のとおり



役場の窓

◆・夏は高校野球でファンをわかしますが、県内の町村野球大会も夏です。県内四十二町村が地区予選を経て県大会に出場しますが、本町は美祢、吉敷、厚狭郡地区で優勝、長大会の県大会に出場します。応援団を編成、ラッパ手、旗手もおり、応援歌も作っての張切ようです。応援戦の優勝は間違いないところです。

◆・盆踊りのシーズンです。各地で盆踊りを復活したり、新しい踊りをとり入れたりして、踊りの輪を一人の和・広げていこうとするところがふえています。本町のことしの合同盆踊りは、浦万在方、一緒にやることになりました。十六日夜はユカタがけで役場前の広場へそろってお出かけください。そして、踊りの輪へ入ってみんなと一緒に踊ってみようではありませんか。

◆・中尾雪蔵収入役が勇退されました。昭和七年、大学を卒業して間もなく収入役に就任、当時全国で一ばん若い収入役といわれた人でした。兵役、信用金庫支店長などを経て再び収入役となり、以来連続十二年間、前後十九年余と長きにわたり本町の財政に携わり、その高潔な人柄はみこの人から信頼されていました。長い間ご苦労でした。

町職員異動

町は八月一日付で人事異動を行い施設課に用地係を置き、住事は用地買収及び補償と登記等の事務を行います。

（カッコ内は旧）

▽総務課長　田辺　勝（住民課長兼国保年金係長）
▽住民課長　原田　清（総務課長兼企画係長）
▽産業課長　田辺正一（交通防災対策室長）
▽交通防災対策室長　村重貞男（税務課固定資産税係長）
▽教育委員会総務課長兼学校教育係長　中尾　雄（産業課長）
▽総務課企画係長　水本孝士（出納室出納係長）
▽施設課用地係長　大谷幸人（施設課モデル事業推進係）
▽住民課国保年金係長　上重正男（産業課地籍係）
▽税務課固定資産税係長　田村　渉（税務課固定資産税係）
▽施設課施設係　福岡芳博（産業課地籍係）
▽税務課固定資産税係　水本昭治（産業課農業係）
▽施設課用地係　小川文男（税務課固定資産税係）
▽施設課モデル事業推進係　中嶋　清（施設課施設係）
▽交通防災対策室　上野一秋（施設課施設係）
▽出納室出納係　村田信雄（住民課国保年金係）
▽産業課農業係　筒井　信（産業課地籍係）
▽産業課産業係　吉野代博（教育委員会総務課社会教育係）
▽教育委員会総務課社会教育係天野和成（新採）
▽町史編さん事務局長　中尾雪蔵（嘱託）

死亡（ご冥福を祈ります）

中野　平吉　7・24
池村　勉治　7・29
林　道子　7・30
長田　幸子　7・30
金田ハツミ　7・6
藤村フシコ　7・6
石丸　シメ　7・15
深野マツコ　7・17
徳永ツノ　7・6
岩上　80
縄南　88
縄北　68
岩西前　80
小西　72
築地　76
砂二　76
西条　66
小南　33

慶弔録

出生（おすこやかに）

父　綾柄　子の名　月日　部落
河野　諒　長男　隆　6・20　縄南
下野敬行　二女　真由香　6・30　岩辻
屋　武範　長男　武志　6・28　砂三
松重利夫　二女　綾奈　7・2　南祝
松重利男　二女　綾　7・3　浜
北村勝正　長男　真　7・8　前山
礒部英男　二男　忠志　7・17　井関

婚姻（おしあわせに）

上山支朗　澄子（河村）　小野田市
枝村義昭　陽子（宋弘）　厚狭郡山陽町

みんなの広場

あなたの文芸作品やご意見、お気づきのことなど未発表のものをお寄せください

短歌

小東　松尾　君代
亡き母が愛でし緋鯉今もなを飛び沫を上げて吾が池に在り
小西　平海アサノ
雨の中車近づけ乗れと言う勤め帰りの近所の息子
浜　正司ウメノ
紫陽花は露ふふむ間に切るものと言いたる友に今日は持ち行く
砂二　渡辺　宮子
晴雨亭に御坊るまさず母まれし黒き僧衣の折目正しき
飛石　藤重　幾代
大輪のくちなしを貰いあじさいを貰い今日は良き日にありて過ぎた
浜　石田サダ子
雨上がりの並木明るき町角に山椒の実匂え弁当を買ふ
飛石　砂村ヤス子
この秋に嫁ぐ二人の姿ふり返り嫁を見つつ二人聞きをり

俳句

砂三　藤巻ミツノ
一人立ち出来るが子よりも病める子に親の情けのとくにかかれり
砂三　桜井　文子
あと五分眠らせてくれとたのむ娘は額の汗を布団にぬぐいて
小西　藤重テル子
窓をうつ雨に目覚めてねがえれば夜明けをつぐる鶏の声
小西　徳本　喜一
お盆の日はやくしていると子供等は線香花火もってたのしむ
源河　村井　薫
ラケットを持ちし一団降り行きて空きし電車に草絮の舞ふ
岩西　中本　幸枝
明方の田は水冷えて補植する苗を持つ我隣の照るを待つ
北祝　原田　双恵
芝生の上に伸ばすわが足幾度も蜻蛉止まるを幼ら見まもる
浜　石田サダ子
鈴止まるを幼ら見まもる

町史編さん室だより⑯

近世の開作

—家来拝領開作—

佐伯長右衛門開作＝佐伯長右衛門家は、就長の時に佐伯本工助就茂から分家し、万治四年（一六六一）には五人扶持切米八石を給与されていた。以来、役岡勤功に対して増されて、寛文四年（一六六四）には六十石、同十年には幕府の巡見使通行に際しての勤功により九十石を拝領している。

同家は土路石川両岸の牧ノ江において開作地を与えられたが、遠波相ノ江で六町余、開立高六十石を、元禄五年（一六九二）に阿知須牧ノ江で開立盛二千八石八斗の開作を行なった。阿知須での田成っ畠を田に地目変換すると開作地は享保十一年には上地開作となっており、潮府へ土地の上表を行なっている。

河村喜衛門開作＝同家は藩主綱広の時に一家をたて、寛文九年に三人扶持四石を拝領した。宝永五年（一七〇八）に開作地三町を拝領し、喜右衛門親房の享保六年に一井関村の内、岡、どろ石、旦ノ原、飛石、旦、坂水、岡のえき、北方宮ノ脇、屋敷内」において二町二反余を開立、検地石盛のうえ、二千四石四斗余をえて知行高に加増された。享保十六年には同地の再検が行なわれて、十二石四斗余と減石となったが、これは開作地が薄地のため先に石盛を行なった物成を得ることが困難なためであった。

兼常喜兵衛開作＝兼常猪右衛門就貞の時、貞享五年に井関村内知行地において畠田成及び開墾地九町余の認可を願い元禄二年において開作高三千八石余、畠田成っ畠を田に地目変換すると開作地享保十一年には上地開作となっており、潮府へ土地の上表した。

真夏の交通事故防止

無理な運転をしないよう呼びかけ

小郡交通安全協会阿知須支部は七月に総会を開き、夏の交通安全強調月間における実施要綱を採択し、推進していくことになりました。

▽強調項目

○飲酒運転の追放
○さわやかな気分で運転しよう
○シートベルト、ヘルメットを着用しよう。
○自転車は安全に乗ろう。
○落ついてよく見て道路を横断しよう。

盆の前後は毎年交通事故が多発するので、町内全家庭に交通安全意識が十分浸透するよう、つぎのような愛の一声運動を進めます。お互いに注意し合って郷土から交通事故を追放しましょう。

▽交通安全愛の一声運動

○「ゆっくり走ろう」を呼びかける。
○お盆の帰宅等で自動車を運転して帰る場合は絶対に無理をしないよう呼びかける。
○夏は心の開放から起る飲酒運転追放を呼びかける。
○海水浴、旅行等はゆとりをもって運転をしないよう呼びかける。
○交差点では「確認運転」を呼びかける。
○車の不正改造、暴走運転をしないよう呼びかける。
○シートベルト、ヘルメットを着用することが習慣になるよう呼びかける。

阿知須・井関合同盆踊り

青年団が町制三十周年を記念して

阿知須町青年団「ふるさとの実」は町制三十周年を記念して、大盆踊り大会を十六日午後六時三十分から町役場前で開催します。

昨年までは町盆踊り大会とはいっても阿知須浦の踊りでしたが、今年から井関側も含めた町全体の盆踊り大会となるわけです。

盆踊りは阿知須浦が左回り、井関側が右回りのため、やぐらを中心に二重の輪をつくり、自分の知っている方の輪に入って踊ることになります。

また、例年の「いろはくずし」「白河音頭」のほか「長州音頭」「東村山音頭」「なすの与一」なども組まれ、途中から二地区（各代表者による地区別仮装コンクールなどが行われます。

駐車場は町役場裏側の広場の予定にしていますが、交通緩和のため、できるだけ徒歩での参加を望んでいます。

陶器でみごと金賞

若い陶芸作家古重さん

このほど第二美術協会展が東京都美術館で開かれ、本町材川の古重保男さん（二八）が萩焼の壺を出品、一般の部でみごと金賞を得ました。

古重さんは、山口農高を卒業後タイヤのセールスをしていましたが、知人の大和松雇（しょうが）さんが厚狭に窯を開いて、仲間を投していたのに共鳴、素人ながら焼物の世界に入りました。

展覧会があることに出品していましたが、七年目にして初めての入賞だそうです。

金賞を得た作品は、たて四十七センチ、周囲三十センチの円形に近いものです。

（写真は金賞入賞の古重さんと作品）